

公表

事業所における自己評価結果（児童発達）

事業所名		Roselle Association CLUB V				公表日	令和 8年 2月 14日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		支援ルームが3ヶ所もあり、適切なスペースが確保されている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		管理者・児発管、児童指導員と基準配置が指定通り配置できている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		各部屋の前に絵や〇〇室とこどもたちにわかりやすいよう工夫し、状況に応じてクールダウンできるような環境を整えている。	玄関前に階段があり、バリアフリーの見直しを検討	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		終業前の清掃や活動ごとのスペースを確保している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		3ヶ所の部屋があるので、状況に応じて用途を分け、工夫している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		個別支援会議や朝のミーティング等で振り返りを行い、業務改善に勤めている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者評価票を職員で確認し、業務改善に向けミーティングを行なっている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		朝のミーティングや業務終了前に意見を出し合い、業務改善を行なっている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	グループ内で社内実地指導や管理者会議での意見交換会でアドバイスを受けている。	外部研修会などに積極的に参加し、伝達研修を行なってきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	6		新人職員研修や勉強会、委員会活動（支援向上、感染防止、虐待身体拘束適正化、安全）を行なっている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		法人グループのホームページに支援プログラムの公表を行なっている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		児童・保護者と定期的に面談を行い、ニーズや課題に基づいた計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		個別支援会議や朝のミーティング等で振り返りを行い、個々の統一した支援を行われるよう検討を行なっている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		個別支援計画をもとに話し合いを行い、計画に沿った支援が行われるよう話し合いを行なっている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		エイブルノートを活用し、日々の状況や標準化されたツールのもとアセスメントを活用している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		児童・保護者と定期的に面談を行い、ニーズや課題、ライフステージに基づいて、『本人支援、家族支援、移行支援、地域支援』など項目を設定した計画を作成している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		曜日ごとにリーダー性を設け、朝礼やミーティングにて個々にあったプログラムを立案している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		曜日ごとのリーダー性もランダムに組み立てたり、月毎に活動を変えて取り組んでいる。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		児童のニーズや課題に合わせて、個別の自立活動や集団での運動プログラム、レク活動などを取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝のミーティングで活動内容や役割などその都度、話し合いを行い実施している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援終了後に気付いた点や特記事項がある際は共有し、どう対策していくか？話し合いを行なっている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		その日のうちに連絡帳や活動日誌に記載し、支援の共有や見直しに繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的に保護者とモニタリングを行い、目標の達成度や新たなニーズを確認し、計画の見直しを行なっている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達管理責任者とOJT期間でトレーニング中のスタッフもしくは現場リーダーも同席し、情報共有を行なっている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		協力医療機関と連携し、必要に応じて学校や福祉サービス事業所と会議を行うことで連携して支援を行えるようにしている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		園や保護者、相談支援事業と福祉サービス事業所で会議を行うことで統一した支援を行えるようにしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		保護者・学校担当者、相談支援専門員や事業所で担当者会議を行い、情報共有をこなしている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			該当なし	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			該当なし	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			該当なし	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		6		療育医療センター等の外部研修に参加し、伝達研修等で職員も参加できるよう改善を検討。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	3		地域の公園活動と一緒に鬼ごっこを行ったことがあるが、頻繁ではない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時や連絡帳を活用し、その日の様子を伝えるようにしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3		家族向けの研修会を行ったが、平日もあり参加人数が少なく、土曜日など参加しやすい曜日に開催するなど改善が必要。	
保	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		見学時は支援プログラムについて契約時は運営規定と利用者負担等について説明を行なっている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		体験利用等を通じて契約前に児童・保護者のニーズを再確認し、サービス提供の作成を行なっている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		体験利用等を通じて契約前に児童・保護者のニーズを再確認し、個別支援計画書に反映させ、説明し同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		保護者より相談がある場合には、その都度アドバイスを行い、必要な場合は相談支援専門員に情報を共有している。	

護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	3	保護者会の開催はないが、音楽祭やスポーツフェスティバルなど兄弟同士が参加できるイベントを年2回開催している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		相談・要望等は早急に管理者へ連絡し、組織として適切に対応できる体制が整っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		あしたばローゼルにてHPを公表。また、月1回にお便りを配布し、情報がわかりやすいよう工夫している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		契約時に個人情報に関する取り扱いについて説明を行なっている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		連絡帳やメール・電話、面談などでコミュニケーションが取りやすいよう配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		事業所の行事がグループ全体と規模が大きいため地域住民の正体が出来ない。事業所単位でのイベントも検討す
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各マニュアルを整備し、委員会活動も法人グループで話し合い、定期的な避難訓練を行なっている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		BCPを作成し、年度ごとの見直し、備品チェック、訓練を行なっている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約前にアセスメント（確認シート項目に記載）のもと確認を行なっている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		契約前にアセスメント（確認シート項目に記載）のもと確認を行なっている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画のもと外出支援計画を立て、危険箇所がないか確認し、安全に配慮している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		お便りなどで、家族に安全計画や取り組み内容について伝えている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハット報告書を作成し、全職員で振り返り共有し、今後起きないよう対策を検討し、支援を行なっている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		グループ内研修や外部研修（管理者コース、職員コース等）で虐待について理解し、虐待防止に努めている。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		法人で身体拘束マニュアルを再確認し、やむを得ず行う際の手順（同意と代替案が見つからない）で書面や個別支援計画書に同意を得		